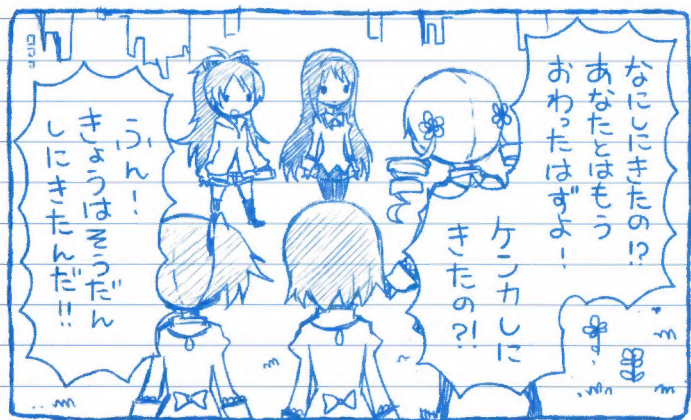
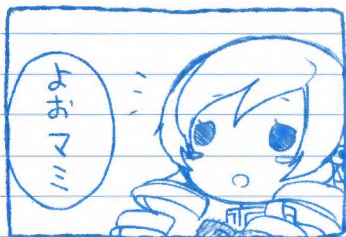
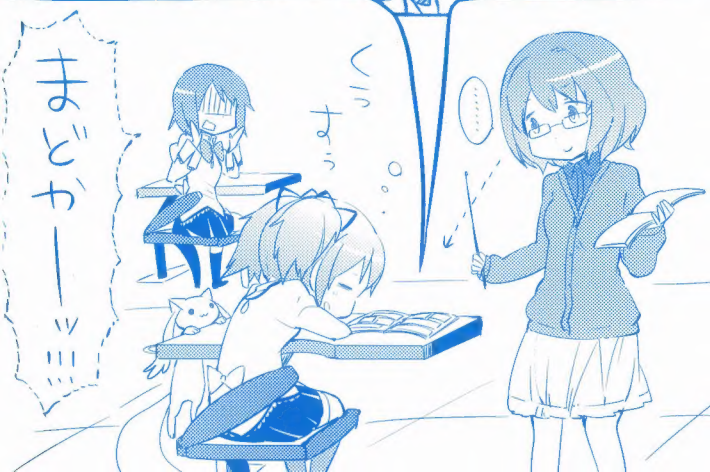
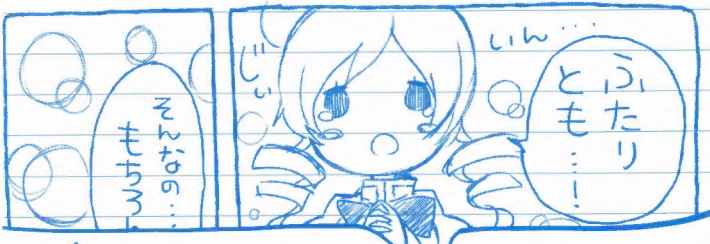
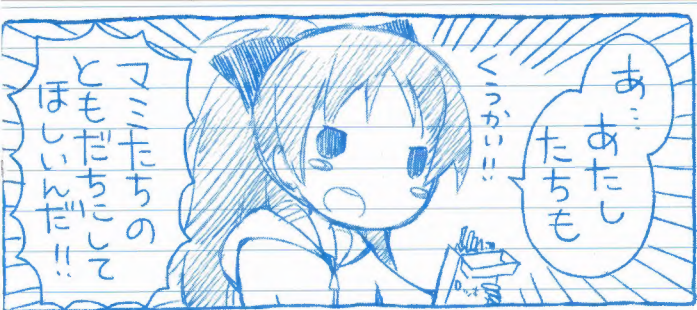
PUELLA MAGI MADOKA MAGICA
~The different story~
魔法少女まどか☆マギカ
PUELLA MAGI MADOKA MAGICA
~The different story~
中
漫画 ハノカゲ
原案●Magica Quartet
MANGA TIME KR COMICS
MANGA TIME KR COMICS
魔法少女まどか☆マギカ ~The different story~
中
漫画 ハノカゲ
原案 Magica Quartet
芳文社
ISBN978-4-8322-4208-1
C9979 ¥657E
9784832242081
1929979006570
雑誌 52207-15
定価：本体657円+税
マミとコンビを組んで魔女退治にいそしむ
杏子だったが、自らの願いが引き起こした
悲劇を前にして、その心はマミから離れ始める。
一方、魔法少女となった美樹さやかや
その友人の鹿目まどかと行動を共にしだすマミ。
やがて再会した二人は対立し——!?
PUELLA MAGI MADOKA MAGICA
【ザ・ディファレント・ストーリー】
~The different story~
中
Based on story by Magica Quartet
Presented by Hanokage
Published by HOUBUNSHA
PUELLA MAGI
MADOKA MAGICA
~The different story~
MANGA TIME KR COMICS

てく
てく
よおマミ
あっ、あなたは…
いいともだちつれてるじゃねーか
あけみほむらさんとさくらきょうこさん!!
なにしにきたの!?あなたとはもうおわったはずよ!
ケンカしにきたの?!
ふん!きょうはそうだんしにきたんだ!!

あ…あたしたちも
くぅかい!!
マミたちのともだちにしてほしいんだ!!
いん…
ふたりとも…!
じぃ
そんなのもちろ…
くぅ
すぅ
……
まどかー!!!

魔法少女まどか☆マギカ 中
PUELLA MAGI MADOKA MAGICA
~The different story~

漫画＝ハノカゲ
原案＝Magica Quartet

PUELLA MAGI MADOKA MAGICA

~The different story~

【ザ・ディファレント・ストーリー】

Based on story by Magica Quartet
Presented by Hanokage
Published by HOUBUNSHA

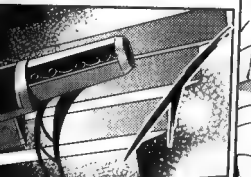
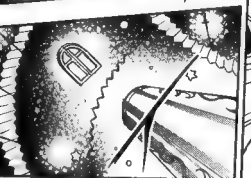
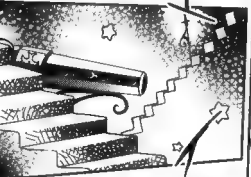
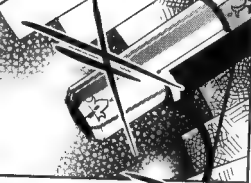
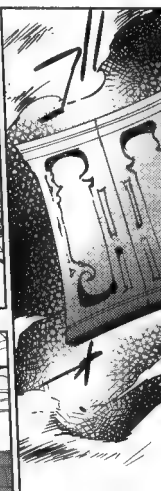
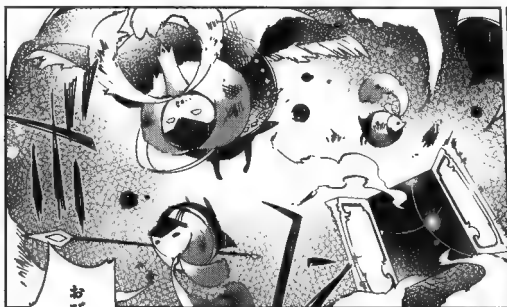
〈EPISODE〉 〈PAGE〉

はぁ
ああッ

ガッ
ババッ
つっのォ…
ギンッ
ガキ
……ッ
パキ
あ……
ガチッ

ありがと
マミさん
いいえ
フォローは
任せて
あの魔女
すばしっこくて
こっちの攻撃
当たらないよ
すぐ扉に
引っ込ん
じゃうし…
モグラ叩き
かっつーの!
落ち着いて
チャンスは
私が作るわ

あと少しだけ
魔女の注意を
引きつけておいて
分かった!
マミさん…
大丈夫
美樹さんを
傷つけさせたりは
しないから
あれで最後ね

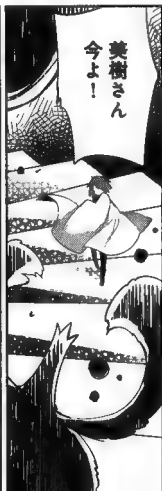
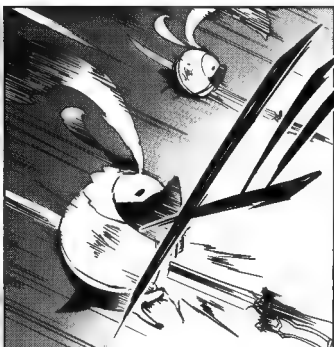
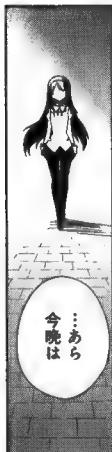
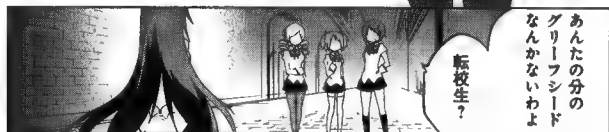
美樹さん
その場から
動かないで－！
今から私が
魔女の出入り口を
一つに絞るわ
美樹さんは
残った扉から
魔女が出てきた所を
狙ってくれる？
！
オッケー
やってみる！
それじゃあ
一気に
攻めるわよ！

ティロ・
おびき出せた！

リチェルカーレ

美樹さん
今よ！

迎え討って！

えへへ…
やったよまどか！
マミさん！
…あら
今晩は

暁美さん
ほむらちゃん…
魔女は私達が倒したわ
この辺りの魔女の気配はもうないはずよ
あんたの分のグリーフシードなんかないわよ
転校生？
そんなものいらないわ
ムッ
……っ
……
巴マミ
何かしら？

そんなにこの子が
魔法少女になると
不都合なの？
それとも
うまいこと
手玉に取って
キュゥべえから
聞いたわよ
あなた
佐倉さんと
組んだん
ですってね

あなた達
本気で縄張りを
独占するつもり？
もしあなた達が
その気なら
こちらも
受けて立つわ
覚えて
おくことね
これからは
あたしのやり方で
戦うよ
あれから
月日は経ち

二人共
キュウべえに
魔法少女の素質を
認められ

美樹さやかは
契約を交わし
魔法少女となり

今は私と共に
戦ってくれている

暁美ほむら

鹿目さん達と同じ
二年生のクラスの
転校生。

鹿目さんの契約を
阻止する為に行動
しているようだけど
謎の多い子。

おそらく
相当の魔力を
持ち合わせている
魔法少女。

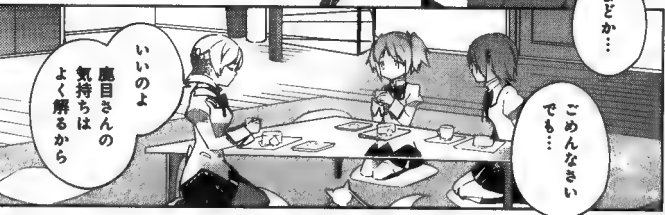
そして、
目的は定かで
ないけれど

再び見滝原市に
やってきた
佐倉杏子は

私と共に
戦っていた頃の
優しい面影はなく

利己的で粗暴な
態度を見せる
少女へと変わって
しまっていた。

魔法少女まどか☆マギカ
PUELLA MAGI MADOKA MAGICA
~The different story~
第5話

マミさん
それって
自分達の
身を守るために
他の仲間じゃない
魔法少女のことは
諦めなくちゃ
いけないってこと
なんでしょうか…？
まどか…
ごめんなさい
でも…
いいのよ
鹿目さんの
気持ちは
よく解るから

魔法少女同士で仲良く出来たらいい
誰とも対立したくない…って思う気持ちは私にもある
好き好んで争いたがる子なんていないものね
はい…私は
みんなで助けあえたらいいなって思います

その事情がはっきりしないからこそ
今のあの子を安易に仲間として迎え入れる訳にはいかないの
私にはあなた達を守る責任がある
もし信用のない子と組んだとして万一という事も有りうるし
そうして不測の事態に陥った時に
鹿目さんを守りきる保証だってできなくなるの
………
やっぱり
わたしも早く願い事を決めて…
そうだねまどかが魔法少女になれば
大きな戦力になるのは間違いないし
君が契約してくれれば僕としても

コホン

私達は急かさないから

よく考えて

魔法少女になればそういった割り切る覚悟も必要になるってことだから

は、はい…

もぐ もぐ

でも結局のところは相手側に歩み寄る意思があるかどうかよね

そうだぞまどかー

あの転校生だって

なにが「そんなものいらないわ」

よ！

あんなムカつく態度取られたら仲良くする気にもならないっつの！

あいつは
使い魔を
放っておく
だけじゃない…
あたしの祈りまで
くだらないって
笑ってバカに
したんだ
「アンタの願いは
誰のためにも
ならない」
「叶えたって
ロクな結果に
ならない」
そう
言ったの…
あたしの事を
何も知らない奴に
いきなり
知ったような
こと言われて
許せるわけないし
……
ごめん
もうやめよ
マミさんの
美味しい
ケーキの前で
する話じゃ
ないもんね
あんな奴こそ
あたしは絶対に
馴れ合いたく
ないよ
…そうだ
さやかちゃん
さて

明日提出の課題終わった？

!?

そんなのあったっけ…

やば…

魔法少女の使命は大事だけど学校の勉強を疎かにしてはダメよ

い、いや…日々の過酷な戦いの合間に課題なんてやってる暇ないっすよ！

そーいうマミさんだって正義の味方と学業両立できてるんですかー？

心配には及ばないわ？

くっ…！隙がなさすぎるぜマミ先輩！

そうだわ

美樹さんにはこれまで実戦重視の訓練をしてきたけれど

そろそろ知識としての魔法も身につけてもらわないとね

はい!?

覚えることは意外とあるのよ？
たとえばより効率的な魔女探索の方法から
え？
素質に見合った基礎魔法の応用術に…
え？
私が書きためた研究ノートがあるから参考になるはずよ
ヒッ
ダン
美樹さんには早く一人前になってもらわないとね
およよ
…佐倉…？

カチ…
…さて…と
今日はなにをするんだい
鹿目さんに言われて気がついた…
課題…
ああもうすっかり忘れてた
一晩で終わるかなぁ…
……
……
あの子達には絶対内緒にしてね？
先輩がだらしないと後輩に示しつかないんだから！
僕は構わないよ
………
はぁ…
後輩…ね

…ねえ

キュゥべえは なにか 知らないの？ 暁美さんと 佐倉さんの こと

君から縄張りを奪うつもりだと 想定するのが 自然だけど

残念ながら 確証はないね

ただ 知っていた としても

僕が提供できるのは あくまで中立的な 立場としての 情報のみだけどね

そうよね

彼女達を 仲間にする つもりなのかい？

…ううん

もう 私一人の問題じゃ ないもんね…

今は鹿目さんと 美樹さんが 居てくれれば… 私はそれでいい

ティロ・
フィナーレ!
仁美ちゃん!

気を失ってるだけだから大丈夫ね
そっとしておきましょう
よかった…
でもどうして仁美ちゃんが…
珍しいことじゃないわ
ほんの少しでも心に付け入る隙さえあれば魔女はどんな人間だろうと取り込んでしまうものだから
鹿目さんのクラスメイト？
はい友達なんです

もしかして…
お早くも
見限られちまった
のかい？
…まあ
ご挨拶ね
佐倉さん
おあいにく
だけど
美樹さんは私を
裏切るような
子じゃないの
あなたと
違ってね
そういう
あなたこそ
暁美さんは
一緒じゃないの
かしら
組んだって
聞いたけど？
知るかよ
あんなヤツ
つーか
あたしの事なんて
マミには
カンケーのない
話じゃん？

その態度…本当に変わってしまったわね
あなたの噂はかねがね伝え聞いているわよ？
あまりよくない噂ばかりね
だったら何？追っ払おうってわけ？
争いはしないわ この子を巻き込みたくない
……っ
だいたいさあ、こんな場に一般人連れ回すアンタも問題アリじゃない？
魔女退治はハイキングじゃねーんだぞ？
この子は魔法少女の素質があるの
だからこうして私達のことを実際の目で確かめてもらってる最中よ
無関係じゃないわ

美樹さやかみたいにくだらねー願いで魔法少女になろうってのなら

あたしの標的にするから覚えておきなよ？

わたしはあなたの事をなにも知らないから…

…そんなふうに言わないでほしいです

どうしてさやかちゃんに酷い事を言うのか解らないけど

これだけは言えます

………

さやかちゃんの願いは絶対にくだらなくなんかありません！

…ふん

知らねえからそんなことが言えるんだ

今のアンタは隣のセンパイに振り回されてるだけさ

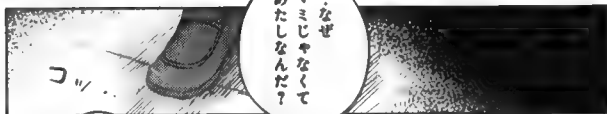
巴マミは戦力を手に入れたいってだけで

契約した後のソイツ自身がどうなろうと構いやしないって思ってんだから

…？

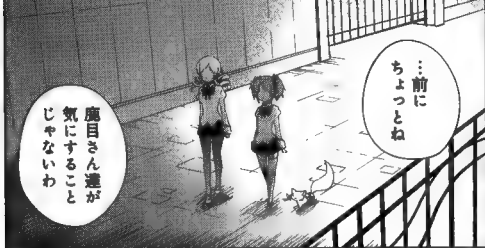
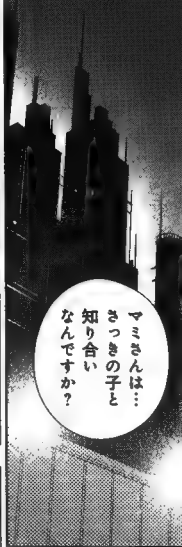
何言ってるの…根も葉もないデタラメ言わないで

…なぜ
マミじゃなくて
あたしなんだ？
コッ…

いや
どうせ交渉の
余地すら与えちゃ
くれなかったん
だろ？

あのヤロウは
あたしら
みたいなのを
目の敵に
してやがる
からね

うまいこと
新米魔法少女を
手篭めにした
らしいけど…
目障りな
正義のヒーロー
気取りが増えて
いい迷惑さ
そんなこと
続けたって
失くしたモンが
戻るわけも
ないのにさ
…詳しいみたいね
巴マミのこと
……
これから
ソイツの縄張り
ぶん取ろう
ってんだ
知ってようが
おかしいこと
ないだろ?
あたしは
まだアンタを
信用したわけじゃ
ないけど
警戒し続けたって
仕方ないしな
話を聞こう
じゃないのさ
ワルプルギスの夜
のこと

マミさんは…さっきの子と知り合いなんですか？

…前にちょっとね

鹿目さん達が気にすることじゃないわ

さっきみたいに誰かに何か言われても

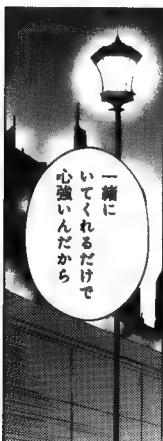
魔法少女になるのかどうか どんな願いを叶えるのかは自分の意思で決めなさい

いいわね

…はい

さやかちゃんが叶えた願いの重さに気付いて

叶える願いも大事なんだって思ったんです

漠然とした理由じゃなくて確かな願いを見つけようって…

ふ
あ
あ
あ

どうしたの仁美ちゃん
寝不足?

それが…昨日の夜なんですけれど…

今日は
マミさんとも
合流できるから
うん
よかった
…あのね
さやかちゃん

昨日のこと
なんだけど…
?
どうかしたの?

その…
仁美ちゃんがね

魔女に——

…数が減らない
使い魔を相手にしてもキリないわ
大本を叩かなくちゃ駄目ね

美樹さん

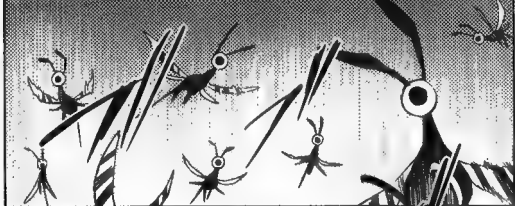
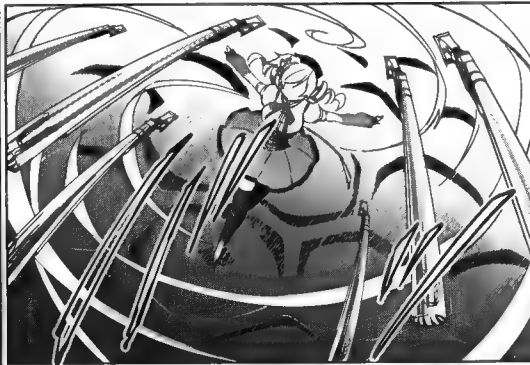
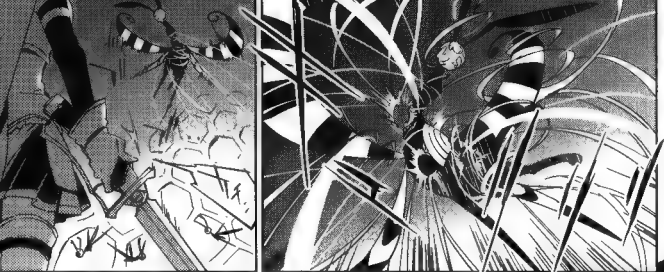
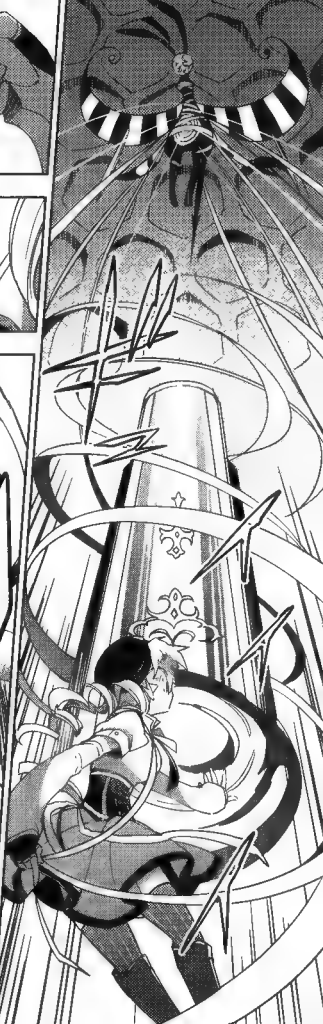
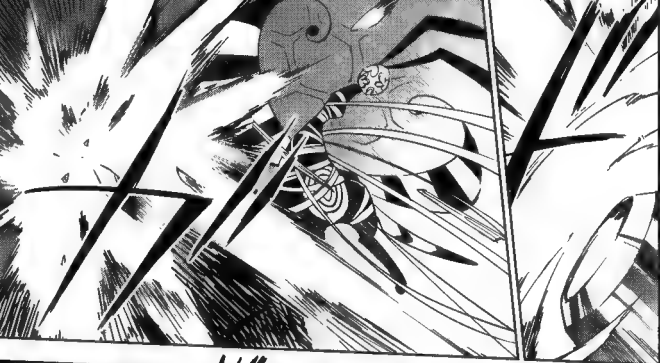
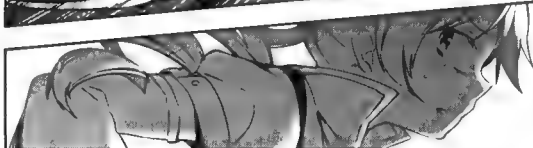
使い魔より魔女の方を集中して狙いましょう

相手の動きを止めるの手伝ってもらえる？

……うん

…よし！
見掛け倒しの
トロい子ね
キュ

ティロ…
!?
きゃ!?

なに…
どういうこと？
結界が形を変えるなんて…
まるで意思でもあるかの…
クル…

…結界の一部
なんかじゃない
さっきまでとは
全く別の魔力だわ
まさか
向こうの魔女は
オトリ?
だとしたら…
気をつけて
美樹さん!
結界の中に
別の魔女が
潜んでるかも
しれないわ!

美樹さん？
さやかちゃん!!

マミ…さん？

第6話
がは!

…く
う…ッ
ギチッ

プツッ
マミさん!!

マミさんっ！
しっかりしてください！
マミさん…っ
……守らなくちゃ

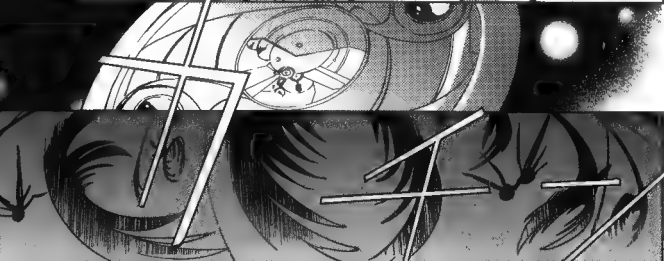
あ…

さやか
君一人じゃ
無理だ！

まどかの力を
借りるんだ

あたしが……

まどか…
早く僕と
契約を！

二人とも——！

！
ほむらちゃ…
どうするの
美樹さやか

巴マミを捨てる？

それとも魔女を捨てるの？

……!?

半端な欲を出すと身を滅ぼすわよ

躊躇している暇はない早く決めて

な…何なのよあんた！

いきなり割り込んできて勝手なこと…

ボサッとしてんじゃねぇボンクラ！

いいからてめぇの仲間助けろ！

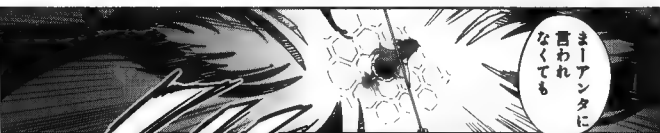
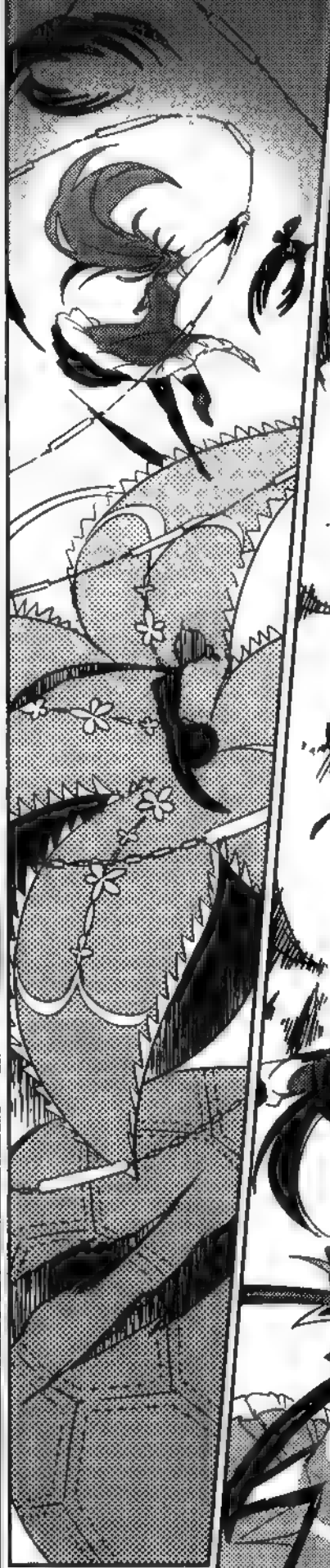
死なせたいのかよ!?

なんで
あんたが…
時間稼いで
やるから
とっととしな！
くだらねぇ
願いだろうが
手に入れた魔法は
アンタのもんだ
使いどころを
見誤るんじゃ
ねぇぞ！
──美樹さやか
君の契約は
癒しの祈りに
よるものだ
……！
さやかちゃん？
回復力は
人一倍だ──

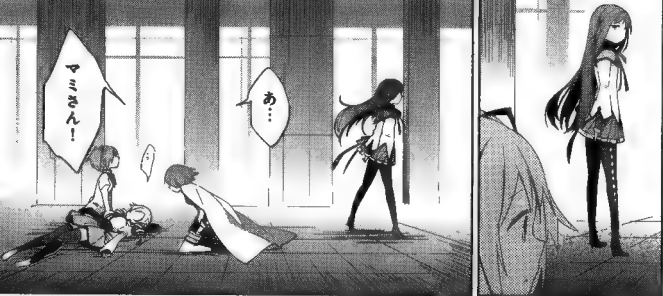
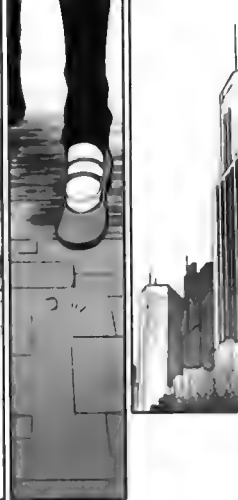
なんでアンタがいるかねえ？
今回のグリーフシードはあなたに譲るわ
私にはするべき事があるから
ハン
そーかい
まーアンタに言われなくても
コイツはもうあたしのもんさ

鹿目さん…？
美樹さん…？

ス…
あの子達…

……あ
!?
てめえらの命がかかってんだ!
…アンタ手加減したろ
魔法少女ナメてんじゃねぇぞ!!

コンビってのはな
一人で戦うのとは
わけが違うんだ
片方がヘマ
やらかしたら
他の奴の命だって
危ねーんだ！
自分だけで
済む問題じゃ
ねーんだぞ！
…そんなこと
あんたに
言われなくても
あたしだって
わかってるわよ！
あッ

マミさん！
あ…
っ
ありがとう
美樹さん
足引っ張っちゃって
ごめんね
…ッ
よかった……
あたしの
せいで…
マミさん
ごめん

コッ
ここで会うのも
ひさしぶりね

隣
いいかしら
グリーフシードなら
使っちまったよ
あなたの
手柄でしょ
返せなんて
言わないわ
それに
もう一つの
グリーフシードは
残してくれたもの
なんの話さ?
…お昼
食べちゃった?
クッキー
焼いてきたん
だけど?

サク
サク
どうして
この街に
戻ってきたの
本当に
縄張りを
奪いに来たの？
暁美さんと
組んでるのは
そのため？
………
…ちょっと
気になるん
だけど
あなた
きちんとした
食事摂ってる？
まさか
毎日お菓子と
ファーストフードで
済ませてるんじゃ
ないでしょうね
ドサァ…
……
年頃の女の子が
それでいいと
思ってるの？
バランスの
とれた食事を
摂らないと…
かっ…

関係ないじゃんか！
リンゴ食ってんじゃん！
ほら図星ね？
それだけじゃないよ
その調子だと食生活だけじゃなくて…
いいだろほっとけよ！
けふ・・・
昨日はありがとう
助けてくれて
暁美さんにもお礼を言っておかないとね
アンタを助けたのは美樹さやかだろ
…佐倉さん
単刀直入に言うわ
あたしじゃないよ

もう一度
一緒に戦うつもり
ないの？
やっぱり
私には
あなた達が
悪いようには
思えないの
……
…あたし…は…
…強く
なったわよね
佐倉さん
な、なんだよ
いきなり…
久々に会って
随分見違えたわ
一緒にいた頃とは
戦いのスタイルが
全然違ってたもの
まるで

失くした能力を補ってるみたいだった

……

あなたがこの街を出ていった理由…

…じゃあ何？

相談したら一緒に使い魔狩りをやめてくれたわけ？

魔法すらろくに使えねえ足手まといに向かって

アンタは嫌な顔せずグリーフシードを分け与えてやるんだろ？

あたしはアンタのそういう所がムカつくんだよ！

昨日の戦いは何さ？
あんたと美樹さやか
傍から見たら最悪のコンビだったよ？
あんまりにも酷いザマで見てらんなかったからさぁ
グリーフシードを授業料としていただく代わりに
あのヒヨッコに手本を見せてやっただけだってのに
勝手におめでたい勘違いしてくれちゃってさ
そんなにあたしに感謝してくれるなら
もう一個のグリーフシードも頂戴しておけばよかったよねぇ？
…やっぱりあなた……
なんであんな奴契約させたんだよ

魔法少女に
なる前から
知ってたんだろ
あいつの願い
よくも
白々しくコンビ
なんて組める
もんだよな…
他人のために
祈ったあたしが
どうなったか
知ってるくせに
…それは
あたしの時みたいに
裏切られちまえば
いいのさ
美樹さんは
そんな子じゃ
ないわ！
…本気でそう
思ってるの？
あの子のことを
悪く言うなら
許さない…
どうだかね
アイツ早くも
ヤバそうじゃん？
許さないなら
どうすんだい？
やろうってんなら
構えなよ！

…いえ
もう
やめましょう
考えの
及ばなかった
私が悪かったわ
…あ
あなたの気も
知らずに
未練がましい事
しちゃったわね
時間を取らせて
しまって
ごめんなさいね
あなたには
元の縄張りが
あるでしょう
なるべく早く
この街から
出て行って
………クソ…

おはよう まどか

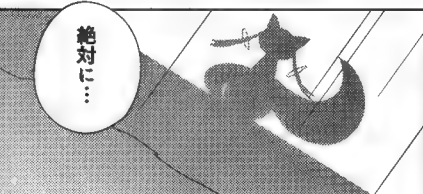
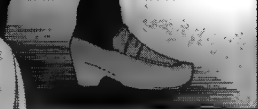
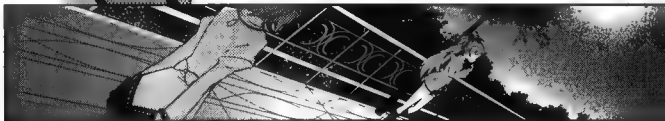
おはよう さやかちゃん

今朝は…

?

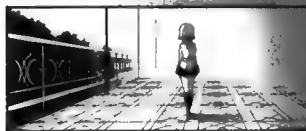
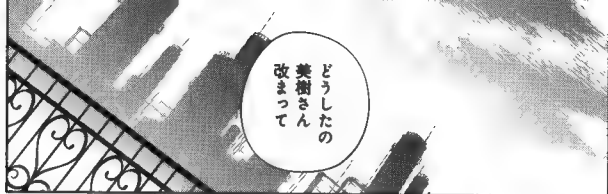
この間は
ありがとう
まどかと
マミさんを
守ってくれて
……いえ
！
さやかちゃ…

あれから
さやかちゃん
自分のせいで
マミさんを酷い目に
遭わせちゃったって
すごく
落ち込んでて…

だから
さやかちゃんの
こと…
嫌いに
ならないで
ほしいんです
これからも
一緒に戦ってあげて
ほしいんです
うん、大丈夫
美樹さんは
これからも私が
守るから
心配しないで
あたしの時みたいに
裏切られちまえば…
そんな事
させない
二度と
繰り返したりは
しない
絶対に…

マミとコンビ
なんてやめときな

どう転んだって
アイツのようには
なれねーんだから

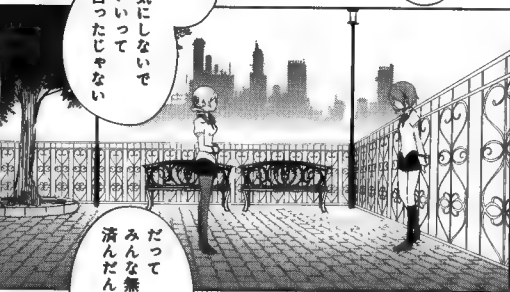
魔法少女としての実力だけだったら
足手まといなあたしよりあんたの方が
マミさんと釣り合ってるんでしょうね
はあ？

あんた達は
利益のためなら
街の人を見捨てる
奴らだし
そういう
戦い方や考えを
認めるつもりは
ないけど
今の
あたしには
それを
非難する
資格なんて
ないんだ
…？
なんだ
あいつは…

どうしたの
美樹さん
改まって

この前は
ごめん

あたしが
気を緩めてた
せいで

マミさんを…

もう…

気にしないで
いいって
言ったじゃない

だって
みんな無事で
済んだんだもの

……ううん

やっぱり
けじめはつけて
おきたくて…

あたし達
コンビ組むの
やめよう？
…どうして？
この前の事が
原因だって
いうなら…
それもあるけど
そうじゃないんだ
？
前に
マミさん
あたしと
まどかの友達の
仁美って子
助けてくれたん
だよね？
え…ええ？

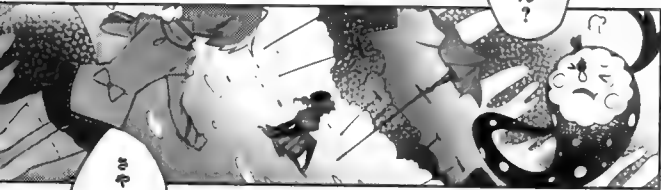
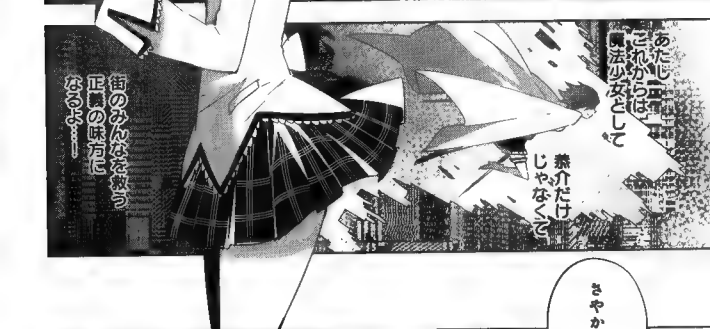
あたし…

あの子が魔女に
魅入られてたの

知ってたんだ

第7話
事故に遭う前は天才少年だったんでしょう？
バイオリンの
大丈夫だよ！諦めなければきっといつか…
諦めろって言われたのさ
もう動かないんだ
歩けるようになったとしても指の方は…
奇跡でも魔法でもない限り！

…あるよ

…み…
美樹さん？
さやかちゃん！
間一髪だったね
マミさん！

良かったね…恭介
あたしこれからは魔法少女として
恭介だけじゃなくて
街のみんなを救う正義の味方になるよ…！
さやかさん
お話がありますの

私
ずっと前から
上条恭介くんの
ことをお慕い
してましたの
恭介
今日はその…
時間ある？
会って
話したい事が
あるんだけど…
ん…明日じゃ
駄目かな
外せない用事が
あってさ
今日じゃないと
…駄目なんだ
………
じゃ、じゃあ…
今きいて
お稽古事
やめるの？
仁美ちゃん

ええ…全部というわけではないのだけど
受験勉強のために時間を割きたいんですの
そのことで少し家の者ともめてしまって…
けどさー仁美は偉いよなあ
今まで文句一つ零さず習い事幾つも続けてたわけでしょ？
あたしなんか今日提出の課題すら忘れかけてたっていうのにさ～
さやかちゃん…
来年は受験かぁ…
もう遠い話じゃないんだよね
仁美ちゃんだって
受験勉強とお稽古事両立は難しいよね
そうですわね

魔法少女

…どうしたの
さやか？

…ううん、いいや

一日だけお待ちしますわ

明日の放課後上条恭介君に告白します

後悔なさらないよう決めてください

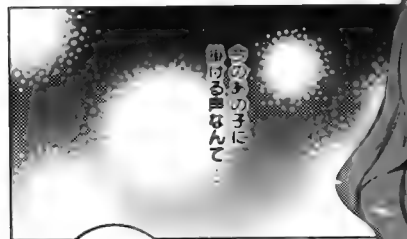
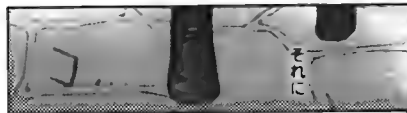
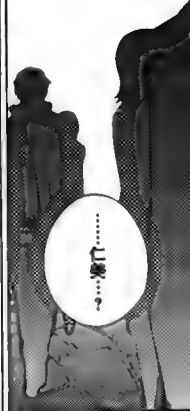
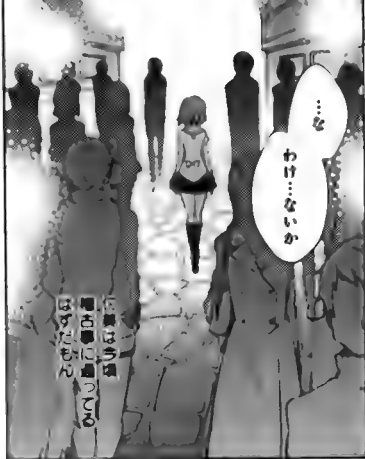
彼に気持ちを伝えるべきかどうか

いいんだよこれで

そうだよ
あたしは魔法少女
だもん

魔女を倒して
みんなを救うのが
使命なんだ

それ以外の事に
時間を割く暇
なんてないんだ

……仁美……？
…な
わけ…ないか
仁美は今頃稽古事に通ってるはずだもん
それに
今あの子に掛ける声なんて…
昨日ね
仁美ちゃん

魔女に魅入られて…
…ね？
最低、だよね？

…それは

美樹さんが悪いわけじゃないでしょう？

だってその時は本人だったかどうかも

魔女に魅入られていたのかも分からなかったんだし…

結果的には助かったんだもの

そうだね

マミさんが助けてなければあの子は死んでたね

……

あたしってホント調子いいヤツだよね

口先では正義ぶってるくせに

いつも誰かに頼りっぱなしで肝心な時に役に立たなくてさ

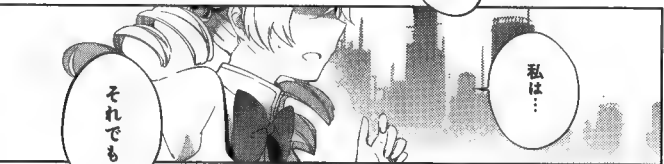
そんなだから
マミさんを
酷い目に
遭わせちゃったんだ
私は仲間を
頼るのが
悪い事だとは
思わないわ
それに私だって
何度もあなたに
救われたんだもの
…美樹さん
あなたがいて
くれたから
今の私が…
マミさんは
優しいよね
どうして
あたしを
責めたり
しないの？
元を辿れば
マミさんの忠告を
押し切って
契約したから
こんなことに
なっちゃった
のにさ…
いつもあたしを
フォローして
くれるのは
嬉しいけど
そういうのが
時々ちょっと
つらいって
いうかさ…

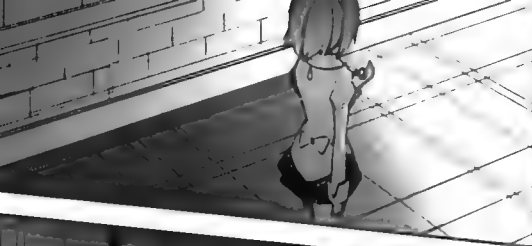
…ごめん
コンビ組むのやめたい理由はそれなんだ

これ以上優しくされてもあたしには返すものがないから

それに元々あたしはさ

マミさんと組む資格なんてなかったんだよ

マミさんだって
自分の命を脅かすかもしれない子とは組めないもんね？
……わ
私は…
それでも
他人を見捨てたこんなあたしでも一緒に組めるって言うなら
あたしマミさんのこと幻滅するかも

ごめんね…

マミさん…

ホラ見ろ
無理じゃんか
なにが無理なのかしら

不機嫌そうね
何か用？
特別用ということはないけれど
…………
あなたがもしかして
あの子達と組みたいなんて考えているのではないかと思って
はぁ？
私も実のところ
巴マミを仲間にできないかと考えていたの
先日の件で恩を売れただろうから
組みたいなんて言ってねぇんだけど…
けれど無駄骨だったわ

…なんだよ

あなた 巴マミに なにか言ったの？

…っ

知るかよ！

あなたがどう 立ち回ろうと 勝手だけれど

その苛立ちを 目的の妨げに してほしくないわね

食いっぱぐれ
たって
知らねーかんな
…そうね
高望みは
やめておくべき
なのかもしれない

一つの街に
これだけの
魔法少女は
…多すぎる
ッ…
――美樹さん？
大丈夫？

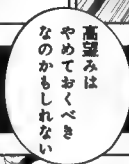
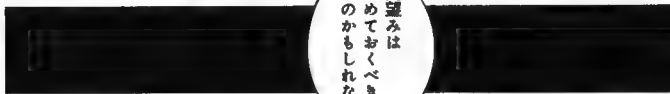
具合が悪いのだったら保健室に…

保健係の子いる？

はい

あー大丈夫です

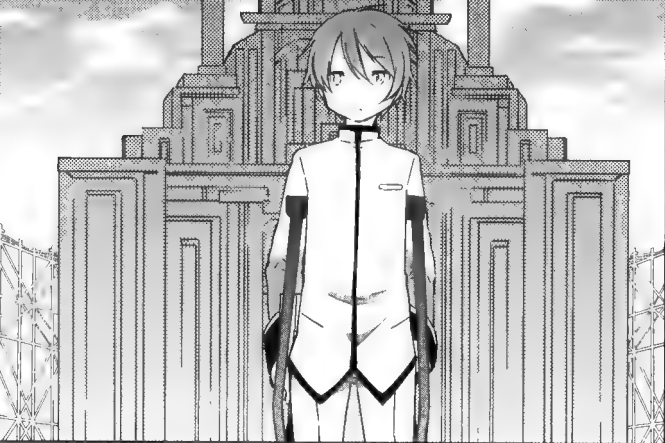
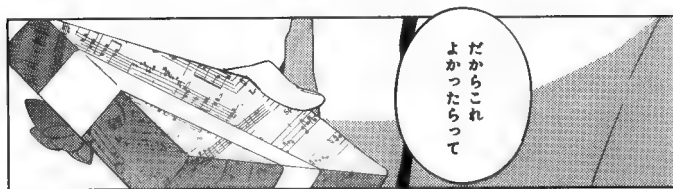
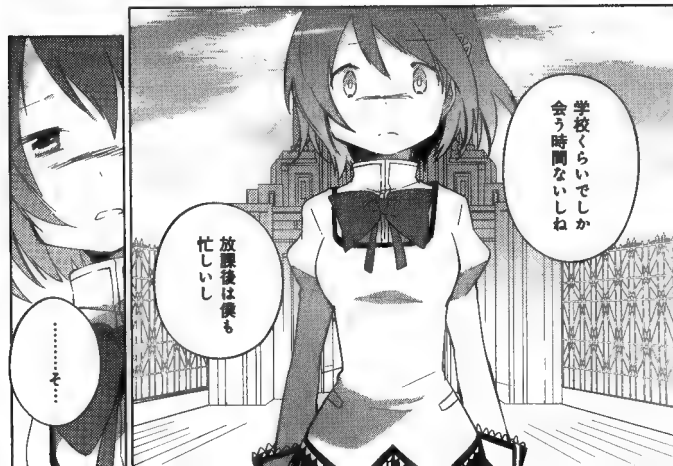
日陰で休んでます

マミさんと仲直りしよう？
さやかちゃん日に日に辛そうになっていくのすごく分かるよ
見てるわたしも辛いもん
このままじゃ絶対によくないよ…
あたしがいたってマミさんの足引っ張るだけだもん
……
だったらわたしだけでもさやかちゃんの側に…
それも駄目
まどかだって分かってるでしょ

あたしは
大事な友達を
見捨てるような
奴なのよ
そんなあたしに
まどかは平気で
命預けられるの？
………
そう…だよね
今のわたしが
ついていっても
迷惑なだけだよね…
？
さやかちゃん？
わたしも
マミさんと
さやかちゃんと
同じように…

なんで…

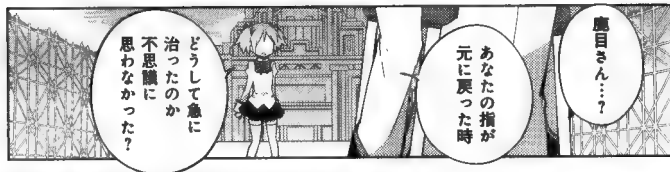
ここに
いたんだね
さやか

ど…
どうしたの？
なにか…用なの？

うん
渡したいものが
あってさ

遅くなって
悪いんだけど
さやかには
入院中に色々
お世話に
なったからさ
ちゃんとお礼して
おかなきゃって
思ってたんだ
だからこれ
よかったらって
学校くらいでしか
会う時間ないしね
放課後は僕も
忙しいし
……そ…

そんなの
いいのにさー！
なんだか気を
使わせちゃった
みたいだねー
ははは
お礼なんて
いいって！
べつにあたし…
感謝されたくて
お見舞いに来てた
わけじゃ…ないし
それに
今のあたしが
受け取る資格…
…？
ほら…
恭介はさ
こんなとこで
時間潰してないで
仁美のとこ
行きなよ
今や
クラス中の
噂だぞ～
仁美と恭介…
付き合ってるんじゃ
ないか～って……

ごめんね
さやかちゃん
?
上条くん
聞いてほしい
事があるの
鹿目さん…?
あなたの指が
元に戻った時
どうして急に
治ったのか
不思議に
思わなかった?
あのね
ま……
上条くんの腕を
治したの…
まどかぁッ!

さやかちゃんなんだよ

さやか…？

だけど…
その奇跡を
目の当たりにした
上条くんなら
分かって
くれると
思うの
さやかちゃんが
上条くんのために
命をかけて
起こした奇跡のこと
まどか…
ほんとに
ごめんね
こんな形で
解決するのは
望まない事
だっていうのは
分かってるの
なんで
言っちゃうの…
だけどわたしは
これ以上傷つく
さやかちゃんを
見たくなくて…
駄目だよ
だってあたしは
仁美に
ひどいこと…
さやか

詳しく
聞かせて
くれるかい？

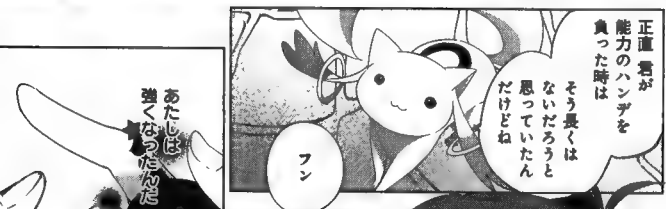
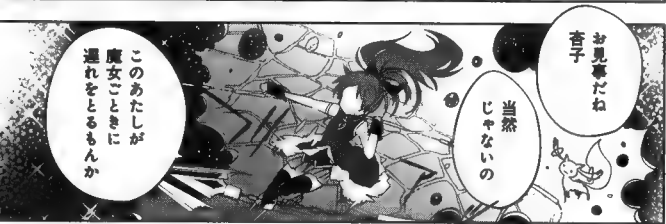
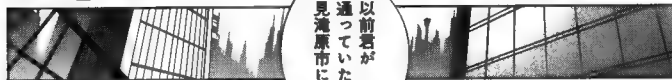
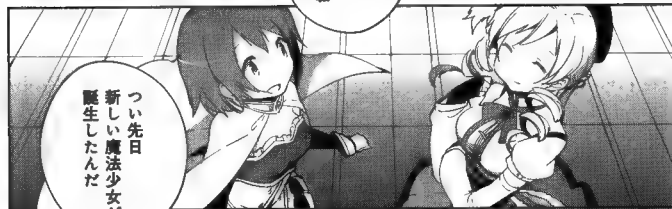
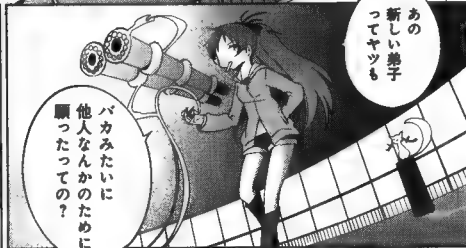
……わかった

あたしが
隠してきたこと
全部話すよ

その代わり
一日だけ
時間ちょうだい

気持ちの整理したいんだ
きっとあたしの嫌なところも知るだろうからさ
…わかったよ
やっぱり今日は早退するね
先生に言っといてくれる？
……うん…ごめんね
はは、いいよ
いやーまさかこんなところでヒーローの正体がばれちゃうとはね～
びっくりさせるなあまどかは
なんだか
いつものまどからしくないね
…ううん

あたしのために
ありがとね
まどか
また明日ね

いっちょあがり！
お見事だね杏子
当然じゃないの
このあたしが魔女ごときに遅れをとるもんか
正直 君が能力のハンデを負った時は
そう長くはないだろうと思っていたんだけどね
フン
あたしは強くなったんだ
そうさ
舐めんじゃないっての
もう二度と昔みたいなヘマはしない
第8話

あの頃の
あたしとは違うんだ
…どうしてるかな
マミの奴
そうだ
杏子
以前君が
通っていた
見滝原市にね
つい先日
新しい魔法少女が
誕生したんだ
…で？
あの
新しい弟子
ってヤツも
バカみたいに
他人なんかのために
願ったっての？
そうだよ

…バカマミ
アンタがついていながらどういう事なんだよ
契約の利点やリスクを何も知らないで魔法少女になるよりも
ずっといい方法でしょう？
なんであんな奴契約させたんだ
魔法少女になる前から知ってたんだろあいつの願いを
また同じ事繰り返したいのかよ
誰かのために祈ったあたしがどうなったか知ってるくせに

アンタ達が組んだってどうせ……
なるべく早くこの街から出て行って
……くそ
…いらぬお節介だったのはあたしの方だ
裏切られちまえばいいなんてホントに思ってるわけないし
バカはあたしだ…
あたしの時とは違うことだって解ってるんだ…

あたしはただ
アンタ達が…
いい加減に
しろよ…
使い魔を
倒したって
意味がないいん
だよ！
本気で魔女を
狙いに行けって
言ってんだ！
アンタ
誰とも組んで
ないいんだろ？
あいつに
合わせる
必要なんか
ないだろ！
戦えなく
なっちまうぞ！

あんたは他人にグリーフシードを取られるのが嫌なんでしょ？
だったら一人で魔女を独占すればいいじゃない
どうして構うのさ
そうしてくれればあたしは使い魔狩りに専念できるし
結果的に街だって守られるんだからお互い利害一致でしょ
要は魔女も使い魔も全部倒せばいい話なんだしさ…
…っ
だから…！
…とにかく
今アンタがやってることは間違ってる
あたしも同じ間違いをしてたから解るんだよ
センパイの忠告は素直に聞きな
…同じって何よ

他人の犠牲で利益を得ることを正当化するようなあんたと一緒にしないでよ

それとも何？

あんたも自分の間違いで大切な人を犠牲にしたバカだとでも言いたいわけ？

そうだよ

…自己嫌悪とかなかったの

こんな自分死んじゃえばいいって思ったりしなかったの？

思わなかったよ
あんたって
やっぱり
そういう
奴なんだ
だったら
あたしは
その逆よ
……
他人に奇跡を
捧げた挙句に
てめえの命まで
くれてやるのか？
くっだらねぇ
人生だな

…そうかもね

あたしだってくだらない理由なのは分かってる

知られたくない人にばれたんだ

魔法少女だってこと

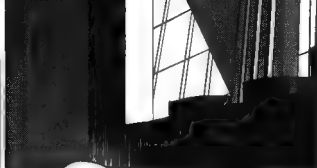
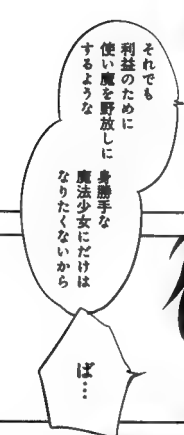
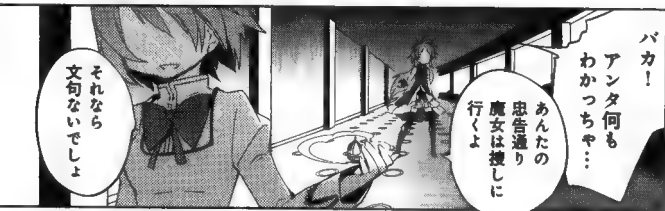
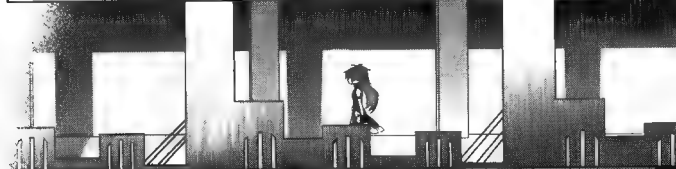
…あんた今 あたしのこと 卑怯者だと 思ったでしょ

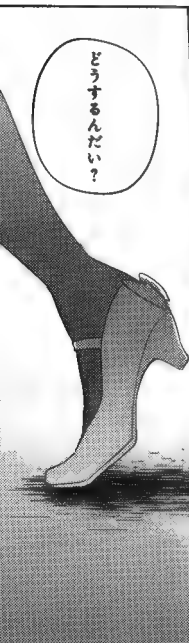
……

いいや
誰にも気付かれず魔女に殺されて
気付かれたことで大切な人に避けられながら生き続けるの
どっちがマシなんだろ

たぶん…同じ事考えると思う

す、

誰にどう思われようが気にしなきゃいいのさ
さっさと開き直って好き勝手生きるのが正解だよ

――アンタと
組んでた
マミだってな
ああいう生き方が
好きだから
やってるだけなのさ
あいつは
正義の為に戦う事
そのものを
生き甲斐にしてる
だからこそ
多少の無茶なり
融通だって
利かせられる
あたしらは
そうじゃない
ようはあいつが
特別ってだけの
話なんだ
絵に描いた
ヒーローみたいに
なれないからって
自暴自棄になる
のはよしなよ
…あんたも
なれなかったから
マミさんから
離れたの？
そうさ
だから
アンタも…
悪いけど

つまんない愚痴に付きあわせて悪かったわね

遅いんだよ
バカ

アイツなら魔女を捜しに向かったよ
さっさと追いかけないと
あんたが面倒放ったらかしてるもんだからさ
大事な後輩とやらを唆しちまったじゃないか？
昔のあたしよりも弱っちそうな後輩が
魔女のエサになっちまうかもしれないよ
どうするんだい？

…そうだよな

同じ事繰り返したくないって思ってるのは

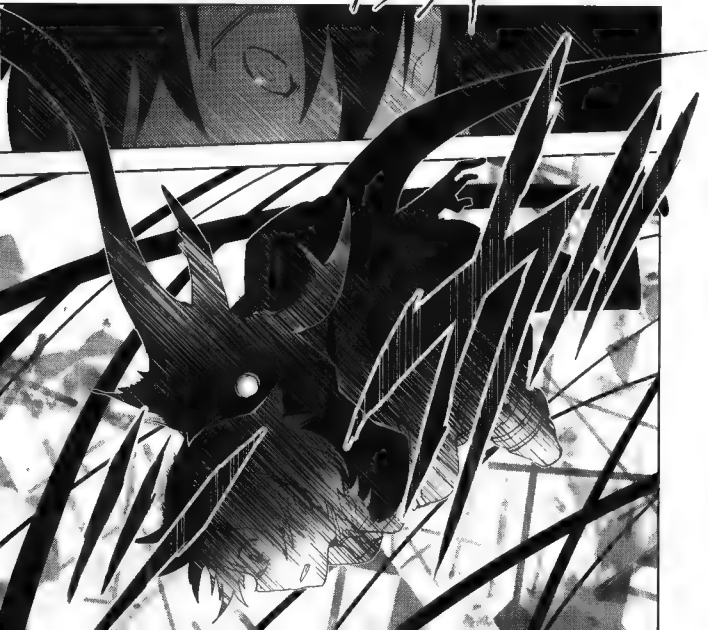
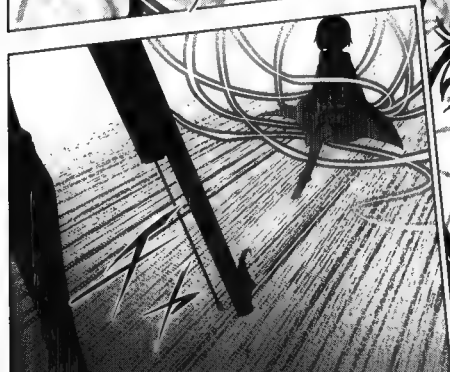
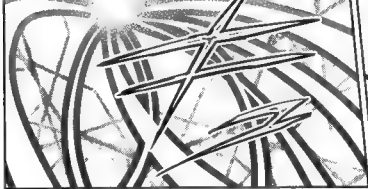
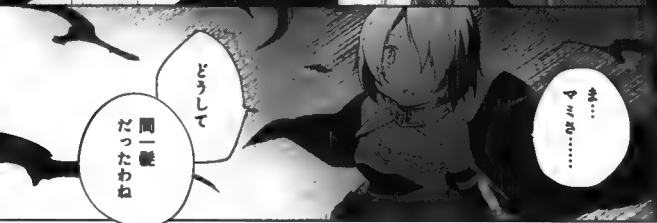
アンタだって同じはずだよな

散々邪魔して悪かったね センパイ

まだ 間に合うさ

さやかには

あたしみたいに なってほしく ないんだろ…?

ま…
マミさ……
どうして
間一髪
だったわね

あとは私に任せて
魔力も底をついてるはずよ
彼に本当のこと伝えるんでしょ

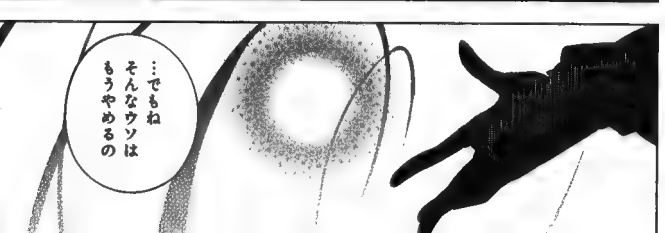
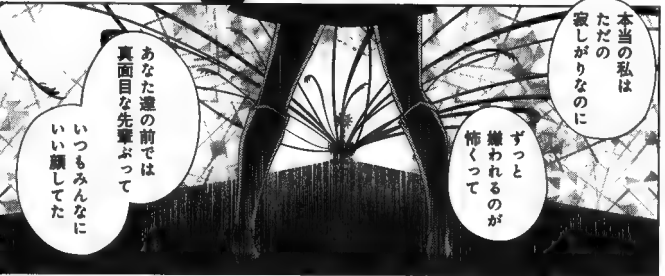
帰りたくない
あたしが最低な人間だってこと大切な人に知られたくない
だからって自分に都合のいい部分しか伝えないような
ずるい自分にもなりたくなくて…
悪者になんかなりたくないんだ
それでも結局どっちか選ばなくちゃいけないなら
いっそあたし逃げちゃおうかって…

言いたくないなら
黙っていれば
いいじゃない

自分に都合の
いいことだけしか
伝えなくたって
ずるい子に
なったって
いいじゃないの

私だってずっと
そうして
きたんだから

マミさん…?
美樹さんは
私のことを
どう思ってる?
もしも
正義の為に戦う
真面目な先輩だって
思っているなら
それは私が
騙してたの

私はね
正義の味方でいたかったわけじゃない
誰かと一緒にいたかっただけなの
本当の私はただの寂しがりなのに
ずっと嫌われるのが怖くって
あなた達の前では真面目な先輩ぶって
いつもみんなにいい顔してた
…でもねそんなウソはもうやめるの

お願い
美樹さん
あなたのためでも
他の誰かの
ためでもなくて
私のために
一緒にいて
あなたが自分を
許すつもりが
ないのなら
私だって
正義の味方なんて
やめてやる
だから…

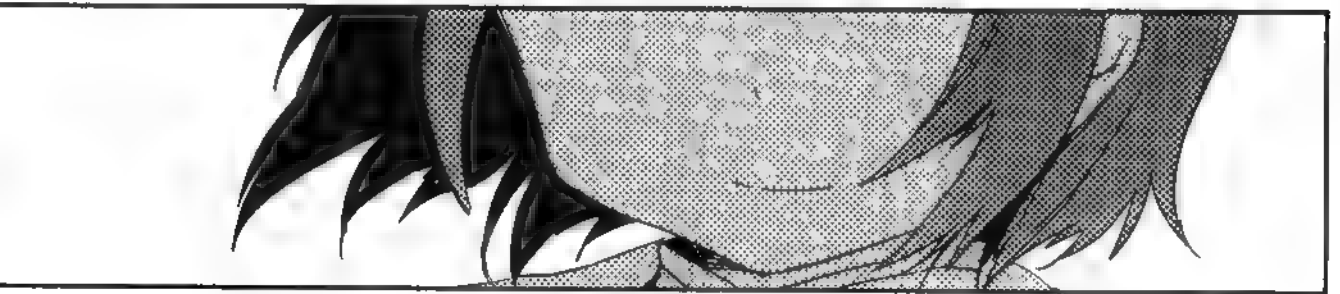
私の前から
いなくならないで
……駄目だよ
そんな
マミさん
あたしの憧れの
マミさんじゃ
ないよ
あたしは
正義の味方の
マミさんが
好きなんだ
だからこそ
マミさんの
足手まといは
絶対に嫌だった
なのに…
そんなこと言われ
ちゃったらさ…
…いいの？
あたしは
悪い子だよ
それでも
マミさんは
いいって言うの？

当たり前じゃない
…はは
参ったな
ここは厳しく言い返さなくちゃいけないところなのにな…
嬉しいんだ
こんなあたしを必要としてくれて

……
これからの事は……皆でお茶しながら考えればいいのよ
さあ
帰りましょう鹿目さんが待ってるわ
今日のケーキは自信作なんだからね！
ありがとうマミさん

……え……

今のって……

………

どこに行くつもりなのかしら

アンタ…
巴マミと
美樹さやかの所に
行くつもりなら
やめておいた
ほうがいいわ
な…
関係ないだろ
アンタに…
死にたいの？
それとも
あなたの手で
殺したい？
…どういう
ことだ？
今頃
おそらく
二人とも
手遅れだって
言っているの

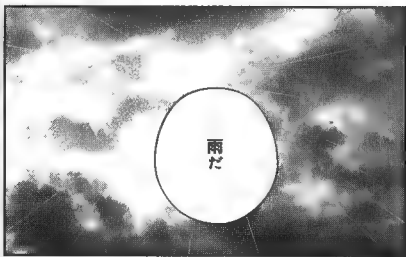
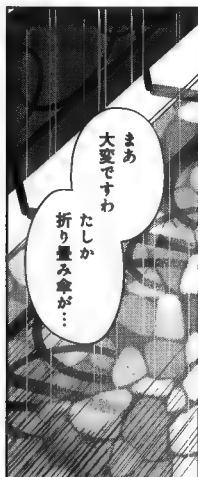
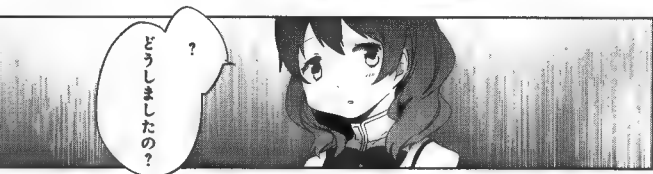
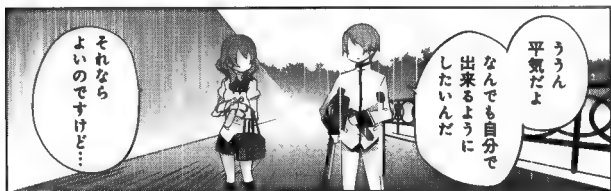
？
どうしましたの？
……いや
まあ
大変ですわ
たしか
折り畳み傘が…
雨だ

えっと…その
松葉杖が
ありますし

上条くんの
分も
傘をお持ち
するべき
でしょうか…?

上条くんの腕
治したの…

…………

マミさんも
見当たらない…
さやかちゃんに
会えたのかな
探すのを
手伝って
欲しいんです
マミさん
さやかちゃん
ありがとうなんて
言ってたけど
やっぱりわたし
心配で
様子がおかしい
気がして…
ごめんね
さやかちゃん

わたし……
そうか
無事結界から
抜け出せたようだね

美樹さやかを救出に来たつもりが予想外の結果に驚きを隠せない
…といった所なのかな
無理もないさ
本来君たちに伝えるべき情報ではないからね

遅かれ早かれ美樹さやかが最初に孵るのは予測できた事さ

手練の魔法少女が複数点在する縄張りに
探索能力の劣る魔法少女を単独で放置すれば
当然利益が行き渡るはずもないからね

どんなに大きな街であれ魔女の数には限りがある
にも関わらず君は使い魔を倒すスタンスを改めようとはしなかった

魔法少女の末路こそ知らなかったとはいえ
君だってことの重大さは十分理解していたはずだけどね？

キュゥべえ…
美樹さんはどうして魔女になったの
訊くまでもなく理解しているんだろう?
美樹さやかを魔女にしたのは
暁美ほむら
佐倉杏子

巴マミ
君達じゃないか？
To be continued...

本書は原作に基づいて新たに描き下ろした
スピンオフ作品として刊行しております。